

錢太鼓大工田教室



▲子どもたちと一緒に楽しく練習しているみなさん

婦人会サークル活動を通して輪が広がっています

錢太鼓大工田教室は、平成16年に北多久地域婦人会のサークル活動として始まり、毎月第2と第4の金曜日の午後8時から大工田公民館で練習をしています。会員の健康づくりのため、婦人会活動を広めるためにと始まった教室に、3～4年前から子どもたちが参加して練習するようになりました。小中学生は現在6人参加。孫とおばあちゃんとの会話もでき、絆が深まっています。

地区の敬老会や文化祭、多久まつりで演奏しています。左右に竹筒型のバチをもち、手を振りながら踊る錢太鼓のレパートリーは10曲。指導者の眞子隆さんの掛け声に合わせて、「岸川節」や「のんのこ」、「久留米そろばん」を踊ります。今では子どもたちが、回したり振ったりする振り付けを良く覚え、難しい曲を上手に披露しています。

問 眞子 隆 ☎090-9568-0499

●連載23● 郷土資料館で学ぶ多久の歴史

親心をもって教え導く『婆心帖』

草場佩川筆『婆心帖』は佩川教育観が最もあらわれている作品で、昔から伝わる説話と儒学の教えを、美しい挿絵とともにまとめたものです。婆心とは子を思う老婆の心、つまり親心をもって教え諭すということで、難しい漢文ではなく「やまと言葉」を用いて、幼子に噛んで含めるように記しています。柔らかな筆致と優しい色使いで描かれた挿絵には、佩川の温かな人柄が感じられます。

『婆心帖』は、佐賀城下に住む西村規謙という豪商の依頼で制作されました。当時佩川は、藩校弘道館の教官を務めるかたわら、一般庶民向けの学問所「教導所」で講義をしており、西村規謙は熱心な受講生でした。

『婆心帖』を著す前の年、佩川は次男・大二郎を失いました。若くして亡くなった息子の幼いころを思い出しながら、佩川は『婆心帖』に取り組んだのでしょう。「婆心」とは、佩川の親心だったのかもしれません。

『婆心帖』は、ただいま郷土資料館3号展示室にて展示しています。

▶草場佩川筆『婆心帖』



多久市郷土資料館・歴史民俗資料館・先覚者資料館

開館時間 / 9時～16時 入館 / 無料

休館日 / 月曜日(月曜が休日の場合は開館し翌火曜休館)

■問い合わせ 多久市郷土資料館 ☎75-3002

市民文芸

短歌

《麦の芽短歌会 互選》

時移り 変転しげき世にありて

職退きし娘等は里に帰り来

田淵ミチ子

新米に大根の葉の一夜漬

楽しみ間引く暮れなずむなか

梶原恵美子

咲く花は綺麗なれども落葉には

日ごと掃除が大変となる

本田 静香

風に鳴る 葉ずれの音の胸に沁む

病の日々を過ごしている吾

浦野 嘉恵

心打つ 短歌を探して日々歩く

それより外に夢中になれず

本村 則子

俳句

《あざみ句会 互選》

マフラーを体裁もなくぐる巻に

田中あつ子

経あぐる 仏間一入 寒かりき

川内スミ子

大寒の 蒼天を研ぐ風の音

中嶋 清子

凍天に ひとすじ北へ 飛行雲

武富りつ子

待春の 祈り小さき 鈴を振る

大石ひろ女

川柳

《多久市川柳会 互選》

子の帰省 太い印を付けて待つ

高塚チカ子

寒さには勝てぬわが身はぬいぐるみ

古賀ちひろ

盲導犬 白い心の杖を持ち

井上 東子

死に急ぎしたくないのよ 孫がいる

峯 ひさえ

白黒をはっきりつけてから 孤独

松下 修